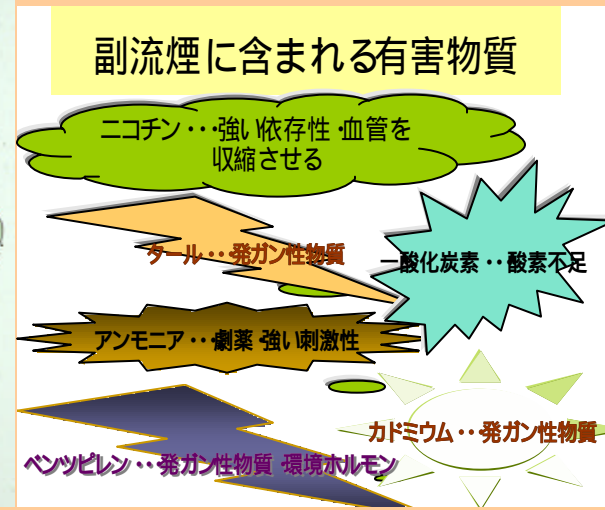
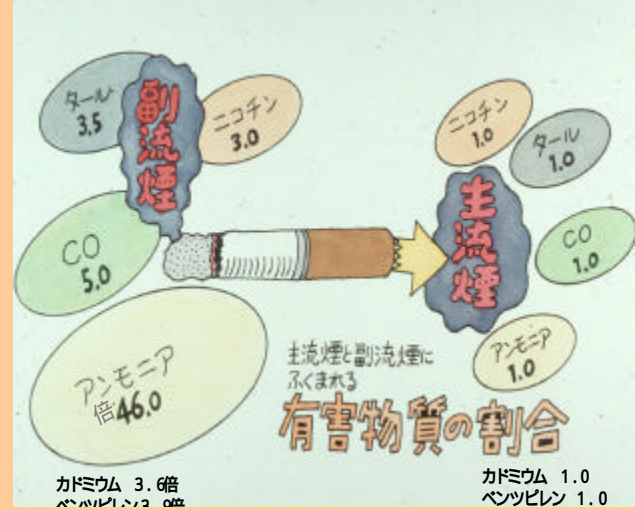




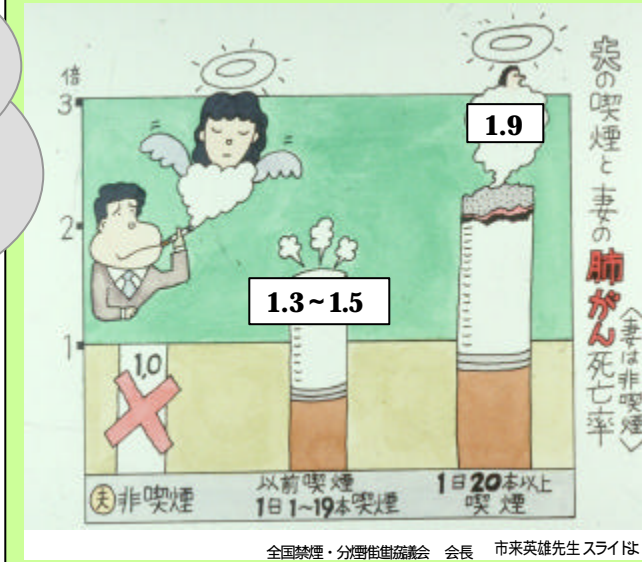
保健所からのひとこと!

今回のテーマは「受動喫煙について」です。
 平成15年5月に施行された「健康増進法」では官公庁や学校をはじめ、多数の人が利用する施設での受動喫煙防止が義務づけられました。さて、受動喫煙(他人のたばこの煙を吸わされる事)が、どれほど周囲の人の健康に悪影響を与えるのかご存じですか?
 今回はたばこが及ぼす周囲への害について情報提供いたします。

たばこの煙には「直接たばこから吸い込む煙(主流煙)」と「たばこの先から立ち上る煙(副流煙)」があります。有害物質は、主流煙より副流煙のほうが多く含まれていて、その有害物質は周囲の人の健康に影響を与えます。



受動喫煙によって周囲の人はいろいろな有害物質を吸い込むため、様々な症状や病気が起こってきます。

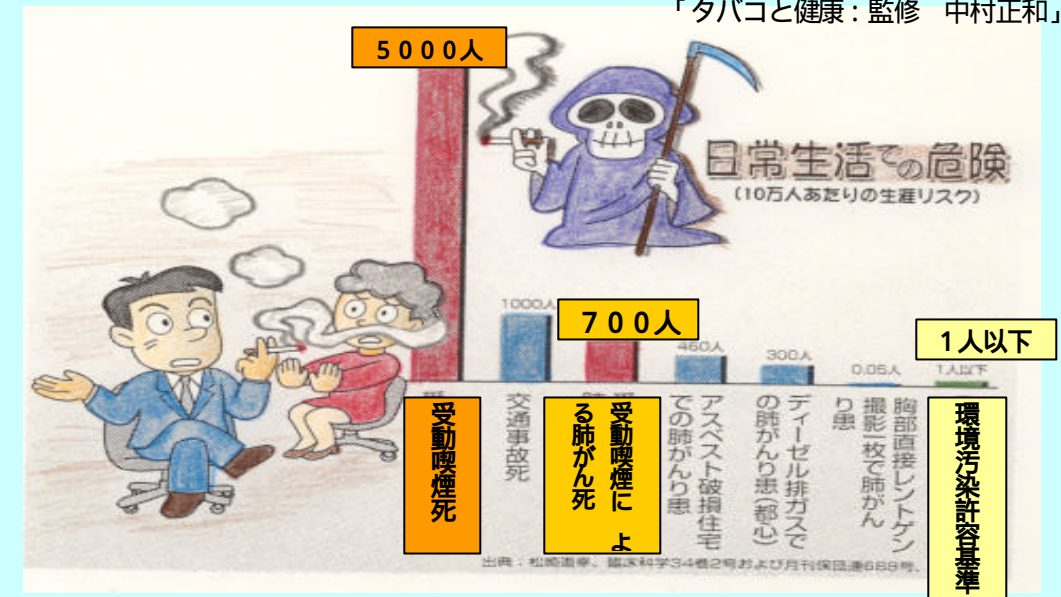


夫がたばこを吸えば吸うほど妻が肺がんで死亡する割合が高くなります!

受動喫煙で周囲の人にも血管収縮が起こります! 「スモークバスター」より転載

受動喫煙が原因で死亡する確率を示す「生涯リスク」を見てみよう!

「タバコと健康: 監修 中村正和」より



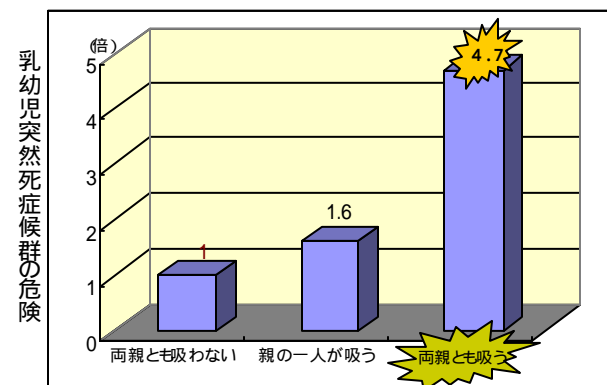
このグラフは受動喫煙が、どれほど有害なのかを「生涯リスク」という指標であらわしたものです。日本人を10万人観察して、それぞれの原因で死亡する確率を比較してあります。

ダイオキシンなどの環境汚染物質でなくなる人は「1人以下」です。受動喫煙による肺がん」で死亡するリスクは10万人あたり700人、受動喫煙死」の生涯死亡」リスクは10万人あたり5000人と推定されています。ディーゼル、アスベスト、交通事故に比較して、タバコの有害性がいかに大きいのかがわかります。

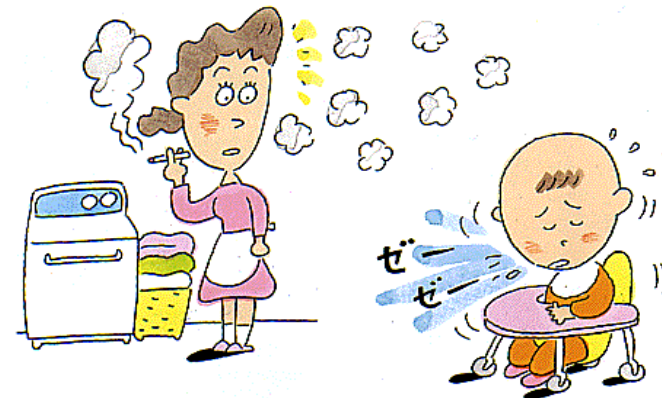
たばこの煙」は、米国環境保健局が「A級発ガン物質」(がんを起こすことが確認された物質)として認定するなど、世界的には有害性の強い「環境汚染物質」として扱われているのをご存じですか? 受動喫煙は環境汚染問題として扱うべき深刻な問題です!

受動喫煙による子どもへの害はこのように深刻です!

喫煙と乳幼児突然死症候群との関係



(厚生省心身障害研究, 1998)



両親ともたばこを吸う場合、乳幼児突然死症候群のリスクは、両親とも吸わない場合の4.7倍になると報告されています。受動喫煙により咳やぜんそくの症状がでやすくなった、かぜ、気管支炎、中耳炎、肺炎などにかかりやすくなります。